

平成26年度 鶴見区災害ボランティアネットワーク事業計画

鶴見区災害ボランティアネットワークでは、災害時の支援活動を積極的に行うボランティア並びにボランティア団体がお互いの主体性を尊重し、平常時から分野を超えて幅広く交流し、ボランティア団体、関係機関、社協及び行政との連携の充実を図るために下記の事業を行います。

1. ボランティア、ボランティア団体、関係機関等の交流と情報交換

- (1) 運営委員会の開催
原則年11回第4水曜日午後6時から開催し、会が行う事業の検討及びボランティア・団体・施設・区役所との情報交換を行います。
- (2) 総会の開催
4月の第4水曜日に総会を開催します。併せて防災に関心のある地域の方も対象とした研修会を開催します。
- (3) 災害ボランティアネットワークAブロック連絡会への参加
近隣区(鶴見、神奈川、西、中、南)の連携をはかるため、年3回各区持ち回りで連絡会を実施し参加します。
- (4) 横浜市・神奈川県災害ボランティアネットワーク会議及びその主催する研修会への参加
市・県域での防災関係の情報を取得・共有し、関係団体・機関との連携をはかります。

2. 災害時の支援活動を行うための検討・研修

- (1) 災害ボランティアシミュレーション、防災関係研修等の実施
一般の方や地域防災拠点の担当者を対象とした災害ボランティアシミュレーション訓練を行います。加えて、地域の方を対象としたDIG、HUG等の研修会を行います。また、地域防災拠点から依頼を受け防災訓練等に参加します。
- (2) 発災時の活動の検討と関係機関との共有
関係団体・機関、区役所、区社協と連携した災害時の具体的な動きについて検討・情報共有します。

3. 災害時に効果的な活動を行えるコーディネーター等の養成

- (1) 災害ボランティアシミュレーション等を実施する中で災害ボランティアセンターを円滑に運営する能力を高めます。
- (2) 災害ボランティアコーディネーター研修等により災害時に活動を担う人材を育成します。

4. その他、目的達成のため必要な事業

- (1) 災害ボランティアのPR
一般の地域の方が集まる機会に、PRパンフレットの配布、活動パネルの展示、防災啓発等を行い、興味関心を持つ方及び会員の増加をはかります。
- (2) 防災意識の醸成
会員が大学生と合同でHUG訓練を行う等、小中高校の児童生徒も含め区民の防災への興味・関心を高める活動を行います。